

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 たまん福祉会
施設名	小規模保育事業所 ココカラ保育園
報告者（役職）	上原 瑞美（園長）
住所・連絡先	〒901-0362 沖縄県糸満市真栄里 1410 番地の 1
	☎ 098-996-2418
	E-mail kokokara@taman.or.jp

### ○タイトル（保育計画）

砂＝優しい物質＝

「柔らかで扱いやすくいろいろな形になって失敗してもすぐに作りなおせる」

### ○主な助成備品

砂場

## 1. 保育計画策定の目的

平成 27 年 4 月に小規模保育事業所として開園したココカラ保育園。

砂あそびは五感をフルに使う事ができ、形がなく自分で自由自在に変える事ができるあそびで感覚統合を促すあそびのひとつであると言われています。そんな大切な砂あそびを「汚れることを気にしないで遊ぶことができる子ども時代を大切にしたい！」という思いから 0・1・2 歳児でも、安心していつでもあそびを提供できる砂場環境を整えることが必要と考えました。

## 2. 具体的な実施内容

### 1) 砂場作り 3m×3m

①工事の請負事業者を選択 見積もり査収。

②日程調整、工事施工



## 2) 砂 場 完 成



1月下旬の土日で砂場が完成。

工事初日は大好きな重機の動きにくぎ付けの子ども達。

その日は工事のおじさんがヒーローになった。

そして、休み明けの月曜日。仕上がった砂場で遊びたくて仕方がない子ども達。しかし消毒の為一週間はお預け。

### ①「あたし達の砂場ができた！！」

まずはお兄ちゃん・お姉ちゃんの「わくわくっこ」さんから。



2歳児は道具をうまく使う。バケツの砂をスプー、トレーにのせた砂がカレーになって「お店やさんごっこ」など砂を身近なものに見たて子ども同士や保育士と会話を楽しみながらごっこあそびをする姿が多く見られました。8人中6人が女児という事もあったでしょう。また、一つの砂山を数人で作るなど、「一緒に同じことをする」事を楽しんでいました。

1歳児の「のびのびっこ」は砂あそびを経験しているからか砂場にもすんなりと足を踏み入れました。そしてカップやシャベルで砂を入れたりこぼしたり保育士の作った砂山を崩したり、何度でも同じことを納得するまで繰り返す姿が見られました。高月齢の子ども達は2歳児の姿を見て保育士相手にバケツいっぱい砂を持って来て「ハイ どうぞ」「これは、なんですか?」「おいしいごはんですよ」などことばのやり取りを楽しむ姿も見られました。



この時期の0歳児「すくすくっこ」は裸足で園庭で過ごす経験も積んでいますが、たくさん砂に興味を示す子、砂場に入る事さえ嫌がる子様々な反応を見せました。

卒園までふた月足らずだった「わくわくっこ」の子ども達にとってこの砂場は思う存分、砂の感触をからだ全体で感じる、同年齢あるいは異年齢の子ども同士の関る機会が多く生まれた場所となりました。そしてその思い出と一緒にココカラ保育園を巣立っていきました。

いつでも、すぐに安全な、砂場で思う存分子ども達へ砂あそびが提供できるという事は私たち保育士にとっても大きな安心感・ゆとりとなった事はまちがいないでしょう。

### ②新年度（平成28年度）を迎え

新入園児10名を迎え賑やかな平成28年度のスタートです。

園庭での砂あそびは0歳児をのぞく5人の新入園児にとって、不安な気持ちを和らげてくれました。朝、不安でお母さんとバイバイの時に泣いていた子も砂場に誘うと

泣き止みあそび出す姿が…。まだ、砂場に入る事は出来ませんが何度も砂をカップに入れたりこぼしたり、砂をいっぱいに入れたカップを並べたりとそんなあそびを毎日繰り返すうちに「ここは安心できる所」と笑顔で登園できるようになってきました。



砂場に入れなかった1歳児新入園児のM君と  
新入園児2歳児のSちゃん



### ③「スープができたよ～」

6月。新入園児も保育園生活に慣れ子ども達の砂あそびはダイナミックになってきました。全身砂まみれでも平気であそぶ子たち。また、水と砂を合わせてあそぶ様になってきました。大きなタライを持ち汲んできた水と砂をみんなで混ぜて「スープができたよ～！」と子ども達。



### ④「おおきな砂山に登ったよ」



一人ではできないけれど力を合わせると大きな砂山も作れることを体験したわくわくっこ（2歳児）達。われ先にと登り始めるが砂山が崩れはじめ、今度はみんなで崩す事を楽しみ、砂山は跡形も無くなりました。が、また砂を集め作り始める子ども達。

何度も作っては、崩しの繰り返しを楽しんでいました。何度でも作り直しができる砂あそびだから体験出来たことでしょう。

### ⑤「お姉ちゃんを真似て」

バケツの中で水と砂を混ぜ合わせている2歳児の砂遊びの様子をジッと見ているのびのびっこ（1歳児）。その数日後同じように砂と水を混ぜて遊ぶ姿が見られました。



こんな風に異年齢で遊ぶことにより大きい子に「憧れる」気持ち、「やってみよう」という気持ちが育つ場所でもありました。

### ⑥「道具を使って」



砂場あそびのおもちゃの中に大きめのふるいが加わりました。

すぐに使い始めたのが、わくわくっこ（2歳児）達。ふるいにかけた細かい砂を使うというより貝殻など大きめのものを集めて喜んでます。

まるで砂の中から宝物を見つけたような表情をしていました。



他にも型はめで形をつかってあそんだり、バケツでたくさんの○を描いてみたり、まだ歩けないすくすくっこ（0歳児）でも見よう見真似でシャベルを使い砂をすくったりと、使う道具も、使い方もいろいろ。道具を手にする事であそびが大きく広がりました。そしてそれは砂遊びだから出来る事だと思います。

## 3. その成果と評価

園庭に砂場を設置できたことで

- ①いつでも砂の冷たさ・あったかさ（熱さ）・重さなどを手ひらや指、足で感じる事ができ感覚の刺激となった
- ②思う存分、納得のいくまで繰り返しあそぶことが出来た
- ③身近なものに見たてごっこあそびの中で子ども同士、保育士との会話を楽しむ事ができた

- ④砂の性質を遊びを通して知る体験ができた（水を加えた時の状態や色など）
- ⑤異年齢であそぶ事で大きい子への「憧れ」や「やってみたい」という気持ちが育まれた
- ⑥みんなで「同じことをする（できる）」楽しさを知る体験ができた
- ⑦繰り返し砂遊びを体験する事で遊び方がダイナミックになり汚れる事を気にせず遊べるようになった（夢中で遊べる様になった）

等、まだまだあげられるものは有ると思います。これまで砂遊びは公園に行くか、小さな容器の中の砂での遊びしか提供できなかったのが園庭に安心・安全なみんなで一緒にあそべる砂場がある事でいろんな子どもたちの姿を見る事ができました。そして、私たち保育士が、子どもの発達にとって砂遊びは大切なあそびであり集団あそびの基礎を作り、子ども心を豊かにさせてくれるあそびであることを改めて実感させられた事こそが大きな成果と言えるのではないのでしょうか。

#### 4. 今後の課題と展望

今回、助成して頂いた事でいつでも安心してあそべる安全な砂場ができた事に心から感謝いたします。

0・1・2歳児対象の子ども達ですが全身砂まみれになって遊ぶ姿に頼もしさを大きい子に憧れ「やってみよう」とチャレンジする姿に可能性を感じ、子ども達の心の成長を嬉しく思います。

衛生面での管理はもちろんですが、沖縄という地域柄、強い紫外線防止などの対応策も考えなければなりません。また、現代の子ども達は色々な刺激に弱く「砂アレルギー」などということばも聞きます。そのような事態の対処法など職員みんなで学び合いこれからも「砂＝優しい物質＝柔らかく扱いやすくいろいろな形になって失敗してもすぐに作りなおせる」を保育に生かす為にも「いつでも安全・安心できる砂場作り」に努めていきます。

以上